

「第26回 奨励賞・功労賞」記念特別号

一般社団法人

日本女性科学者の会 NEWS

*The Society of Japanese Women Scientists***No.129 Special Issue, 2021.9**

I. 会長就任のご挨拶

一般社団法人日本女性科学者の会 第10代会長 跡見 順子

この度、60年余の歴史をもつ日本女性科学者の会（The Society of Japanese Women Scientists：SJWS）第10代会長をお引き受けすることになりました。私はいわゆる理系育ちではありませんが、大学4年のときに恩師・渡邊俊男先生に読むように言われた『人間の生物学（ショシャール著、八杉訳、1959）』に魅せられ、科学の道に足を踏み入れました。それから半世紀、昨年からの新型コロナウイルス感染拡大は、私たちの日常、教育・研究現場において急速な変革を引き起こしています。諸外国に比較して極端に女性比率が低い現在の状況下では、私たち女性科学者の意志が、その変革に反映されていないという大きな課題を日本は抱えています。女性科学者として100年を生きぬき活躍し続けることができる（社会参加寿命延伸）明るい未来を、SJWS会員の皆さまとともに構築したいと思います。

私は東京農工大学工学府材料健康科学の寄付講座の客員教授として、今も研究と教育に携わっています。SJWSには東洋医学という新しい柱を世に

出した大倉多美子元会長に誘っていただきました。コロナにより急速に進んだオンラインで、大島範子元会長、日本での定年後も米国で研究活動を続けている山口陽子元理事とZOOMで情報交換ができました。そして山口理事からは第5代佐々木政子会長の下で大活躍された石原良美元総務担当理事がこの8月10日に60歳の若さで急逝されたお知らせをいただきました。SJWSが、多くの理事や会員の方々の献身的な活動に支えられてきたことがよく分かりました。3月のNEWSには「会員の近況」欄をつくりますのでぜひ情報をお寄せ下さい。サイエンスと生き方の両方を、同じ感性をもつ方々ともっともっと親しく話し合えるSJWSにしたいと思いました。



女性研究者が増えないのは何故でしょうか。私たちは科学者です。原因を探り、問題の本質から社会を変革する基盤を考えていきましょう。苦しいときは、科学論文を読み、思考回路を活性化させて、元気な自分を取り戻しましょう。その効果は、私の専門である「身体を動かす」と同等です。アランの幸福論の感性です。

現在、会員は約250名です。オンラインで会員同士が知り合う連続懇談会をしたいと思っております。サイエンスコミュニケーター認定者向けのIDカードもつくりました。ぜひとも申請いただき、SJWSの社会認知度アップにご協力ください。広報では、主催事業の後援名義申請を増やし、HPの改修等でSJWSの見える化をはかっていきます。SJWSのさらなる発展にぜひお力を下さい。

目次

I. 会長就任のご挨拶	1
II. 第26回日本女性科学者の会 奨励賞・功労賞受賞者のプロフィール	2
III. 前会長退任のご挨拶	5
IV. ブロック長のご挨拶	5
IX. 総会報告、2020年度会務報告、 2021年度事業計画	7

第26回日本女性科学者の会
奨励賞受賞



有澤 美枝子 氏
(ARISAWA MIEKO)

47歳

九州大学・大学院農
学研究院・教授

申請時：東北大学大
学院薬学研究・准教授
博士(薬学)東北大学

研究課題：有機重ヘテロ元素化合物の遷移金属触媒合成を基盤とした医農薬剤開発のための分子設計と生物活性

賞贈呈理由：受賞者は、高度で精密な生物活性の発現と調節の観点から、酸素・窒素と似て非なるイオウ・リンなどの第3周期以降の元素を含む有機重ヘテロ元素化合物の触媒合成を基盤とした新しい化学領域を開拓した。受賞者が見出した安価なイオウ単体の直接利用法・塩基を使わない省エネルギー反応・可逆合成反応による有機重ヘテロ元素化合物合成法はオンリーワンの合成技術である。強調すべき成果として、有機溶媒中で行われる遷移金属触媒反応を水中均一系で実施できることを見出し、合成ペプチド・タンパク質の触媒的な化学修飾に展開した。タンパク質・細胞・臓器・個体レベルの動的挙動に着目して、生体親和性の高い「非対称二環性リンク構造」を提案して in vivo 活性を有する新しい医農薬剤の開発研究を行い、特許出願および企業連携に至っている。このような医農薬剤開発のアプローチは世界的に見て例がなく先導的である。

略 歴：1998年3月 東北大学大学院理学研究科博士課程前期課程（化学専攻）修了
1998年4月 東北大学大学院薬学研究科 教務職員
2001年11月 博士（薬学）（東北大学）学位取得
2001年12月 東北大学大学院薬学研究科 助手、2007年4月より同助教
2010年11月 東北大学大学院薬学研究科 講師
2013年4月 東北大学大学院薬学研究科 准教授
2021年4月 九州大学大学院農学研究院 教授

連絡先：〒819-0395 福岡市西区元岡744 九州大学大学院農学研究院生命機能科学部門
生物機能分子化学講座 農業薬剤化学研究室
TEL：092-802-4719, E-mail: arisawa@agr.kyushu-u.ac.jp

第26回日本女性科学者の会
奨励賞受賞



川内 敬子 氏
(KAWAUCHI KEIKO)

48歳

甲南大学・フロンティアサイエンス学部・准教授
博士(理学)兵庫県立姫路工業大学

研究課題：がん遺伝子産物RASとそのシグナル分子を標的としたがん治療薬の創製を目指した基礎研究

賞贈呈理由：恒常的活性化型となる特定の部位が変異したRAS遺伝子のがん遺伝子として機能することが発見されてから30年以上、多くの研究者はRASに対する阻害剤の開発に取り組んできた。しかしながら、RASタンパク質の構造上の特徴からその機能の調節部位へ結合できる低分子化合物はほとんどなく、臨床の場で使われている薬剤は未だにない。受賞者は、RAS mRNAに結合する化合物を同定し、この化合物に光を当てることでRAS mRNAを破壊することに成功した。このことは、RASを標的とした新たな分子標的型PDTとなり、既存技術から際立たせる成果である。さらに、がん遺伝子RASが惹起するがん細胞の悪性化には、がん抑制因子p53の機能欠損に伴うアクチン構造の変化が重要であることを突き止めた。がん進行過程におけるアクチン制御を介したがん細胞の形質決定の分子機構を明らかにしたものであり、学術的に極めて意義深いものといえる。

略 歴：1998年4月 姫路工業大学大学院理学研究科博士後期過程博士（理学）取得
1998年4月 姫路工業大学大学院理学研究科 客員研究員
2002年11月 神戸大学大学院医学研究科 COE研究員
2003年4月 日本医科大学老人病研究所 ポスドク、助手、助教を経て講師
2009年1月 シンガポール国立大学 理学部 リサーチフェローを経てメカノバイオロジー研究所シニアリサーチフェロー/主任研究員
2014年4月～ 現在 甲南大学フロンティアサイエンス学部 講師を経て准教授

連絡先：〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20
甲南大学フロンティアサイエンス学部 腫瘍分子生物学研究室
TEL：078-303-1346, Fax：078-303-1495, E-mail：kawachi@konan-u.ac.jp

第26回日本女性科学者の会
奨励賞受賞



武 洲 氏
(TAKE HIRO・ZHOU WU)
59歳
九州大学大学院歯学
研究院口腔機能分子
科学分野准教授
同OBT研究センター
准教授(兼任PI)
博士(歯学)九州大学

研究課題：歯周病のアルツハイマー型認知症への関与メカニズム解明

賞贈呈理由：歯周病はアルツハイマー型認知症（Alzheimer's Disease, AD）の増悪因子であると提唱されているが、その関与メカニズムが不明であった。武氏は独自の手法を用いて、歯周病病原菌のP. gingivalis菌LPSにより、AD発症誘発を発見し、その誘発関連酵素をカテプシンBと同定した。さらにP. gingivalis菌は肝臓や歯茎など脳以外の臓器でAD原因物質のアミロイドβを作り出すと同時に、循環血に触れる脳血管内皮細胞にアミロイドβを脳に運ぶ受容体（RAGE）を増やし、アミロイドβを脳内に取り込む仕組みを解明した。この発見は認知症の7割を占めるADの予防や発症を遅らせる対策にも期待される研究成果である。

略 歴：1985年中国白求恩医科大学（現吉林大学医学部 歯科専攻）卒業、同大学第三臨床医学院にて助教、講師を経て10年間臨床に従事。1996年に日本へ留学。2001年九州大学大学院歯学研究科博士課程修了・博士学位取得後、日本学術振興会特別研究員。2005年九州大学大学院歯学研究院助教・講師を経て2010年より現職。2017年九州大学大学院歯学研究院OBT研究センター准教授兼任（PI）。中国青海省人民医院、吉林大学歯学医学院、中国医科大学口腔医学院客員教授兼任。英国サウサンプトン大学 客員研究員兼任。

連絡先：〒812-8582福岡市東区馬出3-1-1
九州大学大学院歯学研究院 口腔機能分子科学分野 OBT研究センター
TEL：092-642-6414 FAX：092-642-6414
E-mail：zhouw@dent.kyushu-u.ac.jp

第26回(2021年度)日本女性科学者の会賞選考経緯

賞選考委員会 委員長 梅津 理恵 理事

第26回奨励賞は、2020年6月に本会のHPに募集要項を掲載するとともに、本会広報誌（SJWS News）、男女共同参画・女性研究者支援関連センターや施設がある80あまりの大学や研究機関へのメール案内、関連する学会のHPへの掲載等を介して、広く周知しました。2020年11月1日～20日までの約3週間を応募期間として募集したところ、全部で16名の応募がありました。内訳としては、化学分野が3名、物理・数学・情報分野が1名、生物・生化学等分野が4名、医学・歯学・薬学分野が7名、工学分野が1名でした。応募者の中から、特に優れた応募者を12月の理事会にて選出し、化学分野2名、医学・歯学・薬学＋生物・生化学分野4名、工学分野1名の計7名について、各専門分野の外部評価委員（各分野3～5名、全部で12名）に評価を依頼しました。

その評価結果を基に、3月の理事会にて奨励賞の趣旨にふさわしい候補者の最終選考を行いました。その結果、化学分野から有澤美枝子氏、医学・歯学・薬学＋生物・生化学分野から武洲氏、川内敬子氏の3名に奨励賞を贈呈することが決まりました。

年々、応募者の実績が全体的に高くなる傾向があり、最終決定までには理事会において非常に慎重な議論を必要としました。学術的な実績や研究内容の独創性・将来性のみならず、女性研究者のロールモデルとして相応しいか、SJWSの会員として今後の活躍が期待できるか、という観点も考慮しました。今後、各分野を牽引する女性科学者として、益々のご活躍を祈念しております。

第26回日本女性科学者の会
功労賞受賞



内海 房子氏
(UTSUMI FUSAKO)

独立行政法人
国立女性教育会館
理事長

功績概要：2011年に国立女性教育会館の理事長に着任以来、人材育成・学習機会の提供を通じて男女共同参画の推進に尽力された。民間企業に長く勤務した経験をもとに、地域や大学といった枠を超え、企業で働く女性たちにもウイングを広げたことは高く評価される。支援事業である「女子中高生夏の学校」を充実させるとともに、2013年からは「女子大生キャリア形成セミナー」を立ち上げ、若年層に対するキャリア支援に力を入れた。調査研究においては、企業の新卒採用者を対象に5年間追跡調査を行い、男女の初期キャリア形成の意識の変化を分析した。また、放送大学と連携して、オンライン講座を開発・実施するなど、独自のeラーニング事業に着手し力を入れてきた。数年前から他の独立行政法人に先駆けてテレワーク制度を導入・実施しており、このような新たな取組へのチャレンジが、現在のコロナ禍におけるオンライン研修や職員のリモートワークへの切り替えにつながった。

略歴：1971年津田塾大学数学科卒業後、日本電気(株)(NEC)へ入社。2001年にはNECソフト(株)人事担当執行役員、2005年にNECラーニング(株)社長に就任。2011年7月から(独)国立女性教育会館理事長。また、お茶の水女子大学監事、教職員支援機構評議員、埼玉大学経営協議会委員・学長選考会議委員、津田塾大学評議員、電気通信大学ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業外部評価委員、府中市男女共同参画推進協議会会長。

連絡先：〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地
国立女性教育会館総務課人事・企画係
TEL：0493-62-6714 FAX：0493-62-6722
E-mail：admindiv@nwec.jp

第26回日本女性科学者の会
功労賞受賞



吉祥 瑞枝氏
(KISSHO Y. MIZUE)

サイエンススタジオ・
マリー(SSM)主宰
東京理科大学理数教
育研究センター
客員研究員

功績概要：吉祥氏は、マリー・キュリーの科学教育に関する研究を遂行する一方、理科教育におけるアクティブラーニング型のプログラムを構築し、実験教室などの活動を展開された。特に、女性と科学・理科の観点から女生徒・学生と保護者、一般を対象に科学の啓蒙と普及に貢献された。国際女性技術者・科学者会議ICWES 11(1999年)幕張開催にあたって事前準備の1996年ICWES 10ハンガリー開催より参加し、以後ICWES 12(2002年)オタワ、13ソウル、14リールと連続して参加をし、登壇発表をされた。特に、ICWES14では日本独自の紙芝居『キュリー夫人ってどんな人?』が閉会式典を飾るなど、国際的にも科学の啓蒙と普及に貢献された。国際的競争激化と少子高齢化の下で男女共同参画推進、科学・技術人材育成は肝要である。そのために、中高校生よりも早い段階からのエビデンスベースで抜本的な初等理科教育人材育成施策を提唱してきている。

略歴：香川県出身。1961年に日本学生科学賞(化学：銅アンモニア絹糸の研究)で第11回ISEFカンザシティ米国に参加入賞。お茶の水女子大学物理学科卒業後、米国シンシナチ大学物理学科(1967～1969)、東京大学脳研究所・工学部工業化学科各研究補助員を経て駐日英国大使館科学部上級科学官勤務(1973～2001)、東邦大学・東京理科大学。博士(学術)(お茶の水女子大学)。2002年より現在、サイエンススタジオ・マリー(SSM)主宰。“マリー・キュリーの科学教育”と日本のキュリー初の理学博士“保井コノ”に関心をもつ。受賞：日本化学会化学教育賞(2021)、研究・技術計画学会功労賞(2015)他。著書：「キュリー夫人の理科教室」(丸善)、「マリー・キュリー学習漫画」(集英社)他。

連絡先：〒102-0082 東京都千代田区一番町20-10-606
サイエンススタジオ・マリー(SSM)
TEL：03-3239-1739, E-mail：kisscho-y@fol.hi-ho.ne.jp

Ⅲ. 前会長退任のご挨拶

「今後のSJWSに期待すること」、総会報告

一般社団法人日本女性科学者の会 第9代会長 近藤 科江

長期に渡るコロナ禍で、我々の生活は一変しました。我々が失ったものは、かけがえのない命や対面で得られる全ての体験・感動・交流など、数限り無くありますが、「DX（デジタルトランスフォーメーション）推進」という思わぬ「贈り物」を手にするようになりました。「できたけど、やらなかったDX」は、全ての抵抗を押しつけて、国内外で推進されることとなりました。

私の会長就任は、コロナ禍前でしたが、DXを始めていました。「会議資料は紙でないと」という抵抗もありましたが、理事会資料は全てデジタルファイルで提出・配布・保管するようになりました。理事会も「対面で議論すべき」という考えもありましたがSkype出席も積極的に導入しました。地方の理事の方々は、より多くの時間と費用をかけて「理事会出席の義務」を負うという負担の不均衡の解消は、本会を発展させるためには必須と考えていました。コロナ禍で理事会も全部オンライン化され、総会もオンライン開催となりました。そのため、一対一での対話や親交の場が理事会や総会から失われてしまいましたが、東京一極型の会議形式が、空間の制限なく、海外からの参加も可能な会議になったメリットは大きく、今後、オンラインツールの進化により、より対面に近い交流も可能になると期待します。「できたけど、やらなかったDX」のひとつに電子投票制度もありました。本会は2014年に法人化を果たし、今回4回目の理事選挙でしたが、初めて電子投票制度を導入し、全員投票を実現しました。このことは、投票方法を変えたこと以上の意味がありました。理事会のオンライン化とともに、広く立候補者を募ることができる全員投票制度を実現したことで、理事会を身近に感じてもらい、多くの会員の意見を反映した会に向かって進むことが期待されます。本会の理念や伝統を守りつつ、特定の思想に偏った独りよがりの活動ではなく、多くの女性研究者に求められているものをタイムリーに提供できるSJWSをめざして、より多くの大学や研究機関から、積極的に改善案を出してくれる理事を輩出することが重要と考えます。全体選挙を継続し、女性研究者の環境改善、支援充実のために、皆が関心を持って、自分たちの代表を理事会に送り出す全体選挙に成長させて頂けることを願っています。

5月23日の総会は、e投票システムを使った委任状提出機能を使ったおかげで、総会成立が前日までに確定しており、安心して総会を開始できました。今回の一番の議題は新理事の承認でしたが、こちらスムーズに進めることができました。新会長も決まり、新たな体制で始動しました。引き続き本会活動にご支援・協力頂けます様お願い致します。



Ⅳ. ブロック長のご挨拶

北海道ブロック

小川 美香子 理事

ライフイベントによりキャリアをあきらめることなく、仕事もプライベートも楽しく充実して生きられる社会、女性・男性、既婚・独身、子持ち・子無しを意識する必要がない社会が必要だと考えています。北海道のキャッチフレーズ「その先の、道へ。北海道」のとおり、皆様の力をお借りし、真っすぐな道ではないかもしれませんが、一歩でも先へ進みたいと思います。北海道ブロックは本会最小のブロックではありますが、広大な大地の移動は大変です。適宜Webも利用して交流を深めていきたいと思っています。道外の会員の皆様も、北海道でのイベントの際は、旅行も兼ねて是非お越しください。美しい景色と美味しい食事とともにお待ちしております。

東北ブロック

梅津 理恵 理事

東北大学金属材料研究所の梅津理恵です。SJWSの理事としては4期目、ブロック長としては2期目の活動となります。現在、東北ブロックの会員数は25名となっております。以前、支部の活動として行っていた、「新春懇親会」と「東北支部だより」を再開させることを1期目の目標として掲げ、2020年と2021年の1月に「新春懇親会」を開催し、2020年3月に「北海道・東北ブロック通信」を、そして2021年6月には「東北ブロック通信」を発行いたしました。前回の「新春懇親会」はオンラインでの開催となりましたが、気楽に集うことが可能であることが分かり、1年に1回とは言わず、定例会として開催しても良いのでは、という声も挙がりました。東北ブロックの活動を活性化させ、SJWSに入会して良かったと会員の皆様に感じてもらえるよう、尽力していきたいと思っています。今後とも引き続き宜しくお願いします。

関東圏ブロック

跡見 順子 理事

会長としても考えていることにも近いのですが、関東圏会員相互の連携を深めたいと思っています。SJWSの会員は、「会員」という名前のない存在ではなく、個々が名前を持ちそれぞれの研究を進めている科学者であることを尊重しあうことで、研究のみならず、これまで聞きたくても聞けなかった例えばコロナやワクチンについての科学的理解や判断などを、Zoomなどを使ってどんどん話し合える場にしたいと思っています。家庭内での介護や教育などの問題も女性が孤立しやすい課題です。そうしたことに對しても、SJWS内部の専門家もいるでしょうし、また外部からセミナーをして頂くことも可能です。一人で抱え込まない組織であるよう努力したいと思っています。そのためには、2ヶ月に1回ほどの頻度でオンライン懇話会などを行っていきたいと思っています。

東海ブロック

山本 真由美 理事

このたび東海ブロック長を仰せつかりました山本でございます。同ブロックの尊敬する先輩方に御指導いただきながら責任を果たす所存です。次世代会員の入会促進、そのために必要な魅力ある活動の充実が喫緊の課題と認識しております。情報交流や共同研究の推進などを進めてまいりたいと考えております。

私は、大学に従事しておりますが、女子学生が成熟した女性研究者に育つための支援体制充実が、さらに必要と痛感しております。このような社会への働きかけにおいて、本会は我が国のオピニオンリーダーであり、私も微力ながら粉骨砕身つとめる覚悟でおります。

実は、私の母も本会に支えられキャリアを全うすることができました。昨年、天寿を全うしましたが、母の恩返しのため皆様のお役に立てればとも考えております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

関西・中四国ブロック

岡村 恵美子 理事

今年度から関西・中四国ブロック長を務めさせていただきます岡村 恵美子(姫路獨協大学薬学部)です。どうぞよろしくお願い申し上げます。当ブロックは、この度の再編により、関西から中四国までの広いエリアを跨ぐこととなりました。物理的距離は広がりましたが、昨年来すっかり定着したオンライン方式を活用しながら、今後、会員の皆様がSJWSを少しでも身近に感じ、活用してもらえぬ取り組みを模索していきたいと考えています。来年(2022年)1月のSJWS新春懇談会は、関西・中四国ブロック担当です。現在、ブロックの理事4名で、会員参加型の企画を練っているところです。会員の皆様には、職場から自宅から気軽にご参加の上、会員同士のネットワークを作っていただければと思います。活動についても、忌憚のないご意見・ご提案をいただければ幸いです。

九州ブロック

小川 由起子 理事

九州・沖縄地区の会員で構成される九州ブロックは、現在会員数17名です。今年度は、ブロック理事(福原正代氏、城崎由紀氏、小川由起子)を中心に、会員交流の機会を作り、ネットワーク構築の活動を進めていきたいと考えています。面白いアイデアやご意見等ございましたらぜひお寄せください。今年度も7月に佐世保市少年科学館(長崎県)を拠点とした子ども科学教室を開催します(sjws 共催事業)。秋には女子中高生理系進路支援プログラムを佐賀大学と共同で実施する予定です。福岡県北九州市を拠点とした中学生対象の実験体験や若手研究者育成のための国際セミナーなども計画しています。活動の幅を広げて、女性研究者の輪を広げていきましょう！SJWSの共催や後援が必要な方は遠慮なくお申し付けください。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

【2021年度総会報告】

開催日時：2021年5月23日(日)

開催場所：Zoomシステムによるオンライン会議

出席者数：出席／57名、委任状提出／124名、合計／181名

議長：玉井 幸恵 理事

次第：(1)2020年度会務ならびに事業報告

(2)2021年度会務ならびに事業報告

(3)2020年度収支決算と監査報告

(4)2021年度予算案

(5)新理事の選任

(6)新ブロック長の決定

(7)学術誌投稿規定等の変更について

(8)2020年度新理事候補者選挙について

(9)2021年度SJWS賞贈呈式について

【2020年度会務ならびに事業報告】

1. SJWS主要会議の開催状況

定時会員総会

開催日時：2020年5月24日(日)

出席者数：143名(委任状を含む)

【審議事項】

(1)2019年度会務ならびに事業報告

(2)2020年度会務ならびに事業計画

(3)2019年度収支決算と監査報告

(4)2020年度予算案

【理事会】

第1回通常理事会（第37回）2020年6月14日(日)

第1回臨時理事会（第38回）2020年8月17日(月)

第2回通常理事会（第39回）2020年10月4日(日)

第3回通常理事会（第40回）2020年12月13日(日)

第4回通常理事会（第41回）2021年3月7日(日)

第5回通常理事会（第42回）2021年4月11日(日)

2. 出版活動

・SJWSNEWS：2021年3月127&128号の発行

・日本女性科学者の会学術誌：2021年第21巻

(電子版)の刊行

3. 奨励賞・功労賞の贈呈

第25回2020年度奨励賞・功労賞贈呈式ならびに奨励賞
受賞記念講演会

開催日：2020年9月13日(日)

【奨励賞受賞者】

・坂田(柳元)麻実子：

筑波大学・医学医療系血液内科・准教授

・服部 梓：大阪大学・産業科学研究所・准教授

【功労賞受賞者】

・大島 範子：学校法人東邦大学理事・評議委員、

ダイバーシティ推進センター顧問

・森 義仁：お茶の水女子大学化学科・教授

第26回2021年度「日本女性科学者の会奨励賞」

「日本女性科学者の会功労賞」の選考

【奨励賞受賞者】

・有澤 美枝子：東北大学大学院薬学研究科・准教授

・川内 敬子：甲南大学フロンティアサイエンス学部・准教授

・武 洲：九州大学大学院歯学研究科・准教授

【功労賞受賞者】

・内海 房子：国立女性教育会館・理事長

・吉祥 瑞枝：東京理科大学理数教育研究センター・

客員研究員、サイエンススタジオ・マリー・主宰

4. SJWS主催事業

・SJWS第13回学術大会、第25回2020年度奨励賞・功労
賞贈呈式ならびに奨励賞受賞記念講演会

日時：2020年9月13日(日) 担当：SJWS関東ブロック

参加者：56名(現地参加24名、Web参加32名)

5. SJWS参画事業への参加

◆女子中高生夏の学校2020への参加◆

開催日：2020年8月16日(日)、23日(日)、30日(日)

2020年度子ども科学教室への共催

開催日：2020年8月8日(土)

担当：中国・四国・九州・沖縄ブロック(小川由起子理事)

◆男女共同参画学協会連絡会◆

若手リーダー女性研究者のリーダーシップ育成と

ネットワーク構築のためのワークショップ

開催日：2020年10月16日(土)

SJWS参加者：丸山美帆子会員

第18回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

開催日：2020年10月17日(土)

(担当：中山榮子理事)

◆国際婦人年連絡会活動2020NGO日本女性大会◆

担当：大倉監事、宮本監事、石川理事

日時：2020年11月8日(日)

実行委員長：大倉多美子監事

環境委員会主催セミナー

国際婦人年連絡会分野別委員会環境委員会開催

(座長：宮本監事)

開催日時：2020年12月9日(水)

◆クオータ制を推進する会(略称「Qの会」)の活動◆

「政治分野における男女共同参画の推進に関する法
律(候補者男女均等法)」の改正に向けた活動

担当：大倉監事、浜田理事

日時：2021年3月4日(木)

◆JNWESの活動◆

International Network of Women Engineers
and Scientist ASIA and Pacific Nation Network
(INWES-APNN) Conference and Meeting

担当：近藤会長、大倉監事

開催日：2020年10月24日(土)～25日(日)

【2021年度事業計画】

1. SJWS主要会議の開催予定
 - ・ 定時会員総会
開催日：2021年5月23日(日)
 - ・ 理事会：年5回程度
2. 出版活動
 - ・ SJWSNEWS：129号・130号の発行
 - ・ 日本女性科学者の会学術誌：第22号(電子版)の刊行
3. 奨励賞・功労賞の贈呈
 - ・ 第26回2021年度奨励賞・功労賞贈呈式ならびに奨励賞受賞記念講演会
 - ・ 第27回2022年度「日本女性科学者の会奨励賞」の募集と選考ならびに「日本女性科学者の会功労賞」の選考
4. SJWS主催事業
 - ・ 新春学術シンポジウム、および例会
5. SJWS参画事業への参加
 - ・ 女子中高校生夏の学校2021
開催日：2021年8月8日(日)～9日(月)
 - ・ 第19回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
開催日：2021年10月9日(土)

・ International Network of Women Engineers and Scientist ASIA and Pacific Nation Network (INWES-APNN) Conference and Meeting
開催日：2021年10月7日(木)～9日(土)

6. 外部団体事業への後援
 - ・ 神奈川県かながわ男女共同センター(かなテラス)の理工系キャリア支援講座への講師派遣
- ※詳細は、会員専用HPに掲載しています。

理事監事名簿

【理事】小川 美香子、梅津 理恵、本間 美和子、山田 恵子、跡見 順子、板倉 明子、小杉 尚子、後藤 典子、近藤 科江、清水 美穂、武井 史恵、玉井 幸恵、野呂 知加子、長谷川 美貴、森 義仁、山本 眞由美、永澤 秀子、沼野 利佳、浜田 恵美子、岡村 恵美子、稲田 明理、川内 敬子、島田 緑、城崎 由紀、福原 正代、小川 由起子、廣瀬 理沙
【監事】大倉 多美子、宮本 霧子
【顧問】大野 茂男、丸岡 賢

『日本女性科学者の会奨励賞』募集要項

対象者：広く理系の分野において研究業績をあげ、その将来性を期待できる方で、かつ本会の趣旨に賛同し、その達成のために努力していると認められる本会正会員および学生会員を対象とします。特に年齢、国籍、性別は問いませんが、管理職（教授、部長等）にある方はご遠慮下さい。自薦・他薦は問いません。

※応募と同時に入会申し込みも受け付けます。詳細はSJWSホームページ事務関係「入会案内」
<http://www.sjws.info/admission/index.html> の項目をご覧ください。

奨励賞：表彰楯および副賞20万円（年1～3件）、本会総会（例年5月）において贈呈

応募書類：①本会所定の書式

（本会ホームページ <http://www.sjws.info/prize/index.html> からダウンロードして下さい）

②論文リスト

③関連する主要論文3編のPDF（賞応募課題の研究に関連する5年以内のもの。論文リストの番号に○をつける）

応募方法：Eメールにて提出（①に署名した用紙はPDF化して送付して下さい）。添付ファイルには応募者の氏名を記載し、メールに添付いただくか、別の方法（無料ファイル送付サービス、例えば「データ便」「宅ふあいる便」等）で応募書類をお送りください。

応募期間：2021年11月1日(月)～11月20日(土) 必着

提出先：日本女性科学者の会 賞担当係 E-mail：award@sjws.info
件名を「日本女性科学者の会奨励賞応募」として送信して下さい。

決定時期：2022年3月末頃（メールにて本人宛通知）

編集：沼野 利佳・森 義仁・小杉 尚子・玉井 幸恵・小川 美香子・廣瀬 理沙

発行所：一般社団法人 日本女性科学者の会 ©

事務局：〒184-8588 東京都小金井市中町 2-24-16 先端科学実験棟 205

東京農工大学 工学府 材料健康科学寄附講座内

TEL/FAX 042-388-7539 E-mail：sjws-office@sjws.info